

平成 25 年第 1 回西海市議会定例会

市政一般に対する質問一覧

月 日	通告順	登壇順	氏 名	頁
3月4日(月)	1	1	平井満洋議員	1
	2	2	岩本利雄議員	1
	3	3	田川正毅議員	1
	4	4	朝長隆洋議員	2
	5	5	浅田幸夫議員	3

1. 平井満洋議員

質問事項 1

ごみ処理施設について

質問の要旨

DBO方式による運営費の内容を詳しく伺いたい。

質問事項 2

西海市の将来像について

質問の要旨

どのようなビジョンがあるのか伺う。

2. 岩本利雄議員

質問事項 1

イノシシ対策について

質問の要旨

- (1)平成 24 年度の捕獲頭数の見通しは何頭くらいか。
- (2)平成 24 年度の捕獲頭数見込みは、捕獲目標を達成されそうか。目標達成のためにどのような対策を講じているか。
- (3)平成 25 年度の捕獲目標頭数は何頭か。
- (4)平成 24 年度の被害金額は、中間報告によれば前年度を大幅に下回りそうだが、その理由は何か。被害額の計上方法はどのようにしているのか。
- (5)電気柵及びワイヤーメッシュ柵に関する補助要件の緩和策（受益者戸数を 1 戸以上に改めること）を、合併後再三お願いしているにもかかわらず、いまだに実現されていない。国・県の補助要件に固執せず、受益者 1 戸の場合の市独自の補助要件を策定してはどうか。
- (6)合併後のイノシシ対策についての評価は。イノシシに関する市民の恐怖感を払拭するために、今後どのような対策を実施しようと計画しているのか。

3. 田川正毅議員

質問事項 1

西海市ごみ処理施設の現状と今後の運用計画及び議会に対する説明責任の果たし方について

質問の要旨

- (1)臨時議会において、十分な情報提供がなされなかった理由を伺う。
- (2)選定委員会において指摘された事案を、どのように認識し、対応するのか伺う。

質問事項 2

「市民目線」について

質問の要旨

- (1)「市民目線」をどのようにとらえ、どのように実践されているか。
- (2)市民の代表である議会に対してどのような姿勢で臨まれるのか。

4. 朝 長 隆 洋 議員

質問事項 1

政策の柱とする「地域資源を活かしたまちづくり」を、より具体的に進める政策は

質問の要旨

政策の柱に「地域再生」を掲げる中で、現実として地域を担う若い世代の減少により、今後、市民協働の政策を進めていく上で、各地域活動、その他のあらゆる活動が思うようにいかない実態が表面化している。このことに対して行政職員がしっかりと認識し、どういう関わりを持って知恵と力を発揮し、後期計画の行動計画と戦略を進めていくかという具体的な方法論とやる気をしっかりと市民に伝え、いかにして市民と一緒に発展策を進めるかという手法が、今まさに問われている。このことを踏まえた上で、以下のことについて質問する。

市長が掲げる「地域資源を活かしたまちづくり」を政策とするために、以下のことについて、どのように具体的に職員に指示を出し、さらには予算措置して行動させる考えか。

- (1)「自然」を活かしたまちづくり。
 - ① 豊かな自然を活かすための方策とは。
 - ② 再生可能エネルギー政策であるごみ処理炭化施設を、逆に市のPR材料として活かすべきでは。
- (2)「食」を活かしたまちづくりとは。
 - ① 西海市の農業を守り、育てていくための具体的な方向性として、農業振興公社による6次産業化を含めた5か年計画を策定するということがあったが、どう具現化するのか。

- ② 魚価の低迷、漁獲高の減少、後継者不足など漁業者が抱える問題は大きい。そうした海の幸を活かすためにも、今まで以上に積極的関与が必要ではないか。
 - ③ 民間の事業者も西海井フェア一等頑張っておられる。しかし一方で商工会の会員数はここ数年で激減している。実態は事業者の元気がないように感じるので、事業者の側に立った意見交換を実施したり、ありとあらゆる支援策がないか一緒に検証したり、商工会並びに商工会の若手経営者の支援策を充実させるべきではないか。
 - ④ 大鍋まつりでは多くの集客があり、成果が見られるが、双方向のPRも必要であると思われる。例えば、より売り込んでいくためにも、物産フェアなどを商工会等も含めた事業者の方たちと都会で実施するなどのことも進めるべきではないか。
- (3)「歴史・文化」を活かしたまちづくりとは。
- ① 西海市の歴史的な財産をいかに活用していくのか。
 - ② 住んでいる方にとっては日常であり、気付かない財産もあるかもしれない。そうした歴史的な財産を発掘したり、活かすためにも、地域住民と一緒になった検証や、都会の方にしか見えない価値を見出すための、モニターツアー等の考えは。
 - ③ 西海市では、多くのスポーツが盛んで、市民も大活躍している。こうしたスポーツ文化を守り育てることは、大きな意味があると思うが、より積極的な支援策により住民参加を促し、目の前に迫った国体の成功に向けた啓発が必要ではないか。

5. 浅田 幸夫 議員

質問事項 1

雪浦ダムの問題について

質問の要旨

- (1)現在のダムの構造を自然流下型へ。

現在、雪浦ダムの放流は、ダムの底水を放流しているため、川の水質が非常に悪くなっており、夏は川で泳ぐこともできない状態である。せっかく整備した水辺の公園も、ほとんど遊ぶ子ども達も見かけない状態である。ツガネやウ

ナギなどの魚介類も、ほとんど見かけることが少なくなった。

現在の雪浦ダムを改造し、ゲート式から自然流下型に改善することが必要である。

なぜダムの底水を流すのかについては、ダムに堆積する土砂の放流と同時に下流に放流し、土砂の堆積を少なくしているとした考えられない。このことは何回も指摘してきたが、ダムができてから 30 年あまり、下流の水質悪化とともに、ヘドロが下流に堆積し、魚介類も激減している。

市としても、川の環境を守るため、県に対し強力に要望してほしい。

(2)雪浦ダム建設当時の地元振興策の要望について。

雪浦ダム建設に当たり、地元より区長連名で出された要望書に対し、昭和 47 年 10 月 25 日付で県から回答が得られている。

この問題は、雪浦第 2 ダムが計画されてから今まで凍結状態であったが、第 2 ダムの計画がなくなった現在、再度この要望書を見直し、まだ結論あるいは合意が出ていない事項について再度検討し、県に対し要望する考えはないか伺う。

(3)水質の浄化について。

ダムの放流水による水質の悪化に伴い様々な被害が出ている。ダムの下流直下に水質浄化装置を整備するよう県にお願いしてほしい。

(4)魚道の整備を。

魚道を整備して、ツガネやエビ、アユの遡上ができるようにお願いしてほしい。

(5)河川整備計画の早期着手を。

河川整備計画並びに方針を早急に進め、自然がよみがえる川につくり変えてほしい。

質問事項 2

雪浦川全体の内水面組合の再構築について

質問の要旨

最近、他県より違法なカゴ網漁を行い、小さなモクズガニまで根こそぎ取っているのを発見し、警察に通報した例があった。

特に河通川においては、7～8 人の人達が、たった 2 枚の許可証で 40～50 個のカゴを川につけているのを見た。

現在、内水面組合の運営はどのようになっているのか、また、そのような違法

な漁獲に対し、どのような方策を取っているのか伺う。

質問事項 3

雪浦小学校を特殊学校に

質問の要旨

雪浦小学校は伝統ある学校で、教員、医師などすばらしい先輩を多く卒業させてきた。雪浦は特に教育熱心な地域として知られている。

多数の民家に立ち退きを求め、住民も学校のためならということで、宅地を学校に提供し、現在の学校がある。

大瀬戸町に2つの小学校があっても、他町の人には理解してくれるのではないか。そのために、雪浦小学校を特殊学校として指定し、1学年10人程度の生徒数で運営できるようにしたらどうか。

具体的には、授業の中身を英語・算数に特化したものにするとか、英語の教師を採用する等の対応はできないか。

現在の雪浦地区の子どもだけでは60人は確保できないので、校区を越えて、保護者の要望があれば雪浦小学校で特別教育を受けることができるようにすれば可能である。

今や国際化時代、英語ができなければ国際人にはなれない。また、算数ができなければコンピューターを含め科学者にはなれない。そういう特殊学校を目指してもらいたいが、そのようなことはできないか伺う。

質問事項 4

高校住宅の市営化について

質問の要旨

このことは、何回も一般質問で取り上げてきたが、いまだ実施されていない。保育園横の教員住宅を一般住宅にした結果、一般の人達が入居できるようになり現在ほぼ入居している。

高校住宅は雪浦の一等地に所在しながら、16戸の内4戸しか入居されておらず、瀬戸にも高校の教員住宅があることを考えれば、移住してもらい、市に買い取って、市営アパートとして使用すれば、入居者は多く見込まれると思う。

この住宅に若者夫婦が入居すれば、雪浦地域の活性化に繋がり、活気も出てくるのではないかと思っている。そうなれば、保育園、小学校の存続にも寄与できると思う。

今は、結婚しても親と同居しないのが若者達の夫婦のありようであり、例えば、親は雪浦で子ども達夫婦は瀬戸や多以良、あるいは畝刈などで暮らしている現状である。

教員住宅を市営化し、若者夫婦が住んでくれればと思い、そのようなことを地域おこしの出発点として考えてほしいと思っているが、市長の考えを伺う。

質問事項 5

荒廃農地の利活用策について

質問の要旨

- (1) 荒廃農地にオリーブの栽培を推進する考えはないか。
- (2) Iターン、Uターン者に、荒廃農地を整備して水田、畑作ができるような助成金の増額ができないか。前回も同じ質問をしたが、県の補助金頼みの答弁しか返って来なかった。

もっと大胆に、農地の提供は勿論のこと、農業経営が安定するまで、現在2人分で年額150万円の支給であるが、これを250万円（夫婦2人と子ども）ぐらいで5年間支給できるような助成制度にできないか。

そのような助成を年間20組程度の規模で行うと1年間で5,000万円の助成となり、これを5年間行くと100組、子ども2人の場合400人の人口増となる。

他の市町村に見られないこのような助成制度を行うことによって、人口減少に少しでも歯止めがかかるのではないかと思う。このように思い切った政治判断が求められているが、市長の判断を伺う。

質問事項 6

林業再生プログラムの確立について

質問の要旨

今、林業は先行き不透明な時代となり、林業経営が成り立たなくなっている状況である。

先日、私所有の公団造林地に入ってみたが、植えてから50年が経過しているヒノキ林の育ちが悪く、主伐までは程遠いのが現状であった。

その原因としては、間伐が遅れたことが原因と思われ、すぐにでも間伐に取り掛かる必要があることを実感した。現在、森林組合でも製材所が稼働しているが、製材する材料が不足していると聞いている。

大瀬戸町には市有林も多数あるが、製材所がフル回転できるよう、材料の提供

が必要であると考え。たとえ間伐材で利益が得られなくても、製材することによって雇用が生まれ、伐採することで雇用が生まれる。

森林所有者が、70年、80年～100年待って初めて利益を得ることができると感じた。100年木となると桁外れの値段が付くため、現在は、間伐の費用の賃金だけを森林組合等で稼げば良いと思うので、そのへんのプログラムづくりを行政として研究する必要があると思うが、市長の見解を伺う。

質問事項7

キッザニア西海の可能性は考えられないか

質問の要旨

長崎県子ども・若者総合センター所長の中村尊（たける）代表がキッザニア東京を見学され、子どもが本来持っている「のびのび生きる力」を目の当たりにして感動したと1月10日付の長崎新聞に寄稿されていた。

その中で、誘致にはオランダ村跡地が最適で、修学旅行を呼び込めるし、新たな観光資源になると、オランダ村跡地の有効活用を提案されていたが、市として取り組む考えはないか伺う。

質問事項8

市長の2期目のマニフェストについて

質問の要旨

市長は、企業誘致（ミスズライフ）、市立病院の民営化、大型公共施設に関する取り組み等多くの実績を残された。改めてその実績について高く評価し敬意を表したい。

市長の実行力は、必ずや西海市発展のため大きく貢献するものと期待するが、2期目の立候補に当たり、どのようなマニフェストを考えておられるのか、具体的にお示し願いたい。